座礁クジラを埋設

豊留建設、森組が協力

加世田市小湊海岸

18日明朝に加世田市小湊海岸に座礁したマッコウクジラの埋設作業が19日、現地で多くの地域住民や報道陣らが見守る中で行われた。

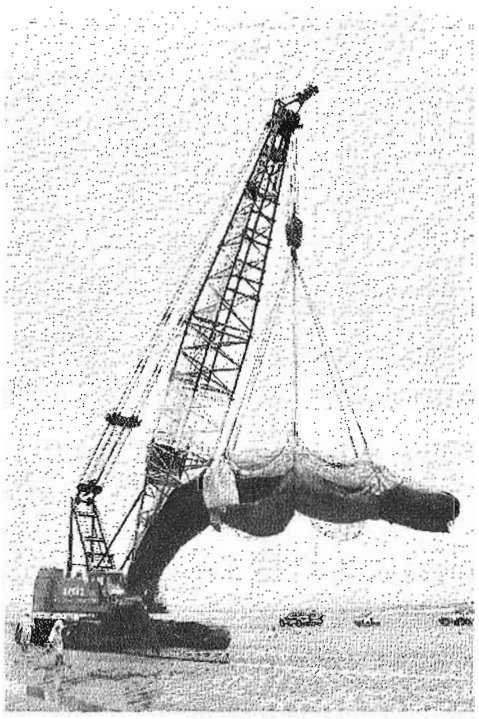
今回の埋設作業には、㈱豊留建設（豊留道則社長、枕崎市）の吊上耐加重180tの高所クレーン車を導入。この車両は㈱森組（森千秋社長、笠沙町）が施工する笠沙町の現場に投入されていたものを、現在進行中の工事作業を中断してクジラの埋設作業へチャーターされた。これも3年前に大浦海岸に座礁した13頭のクジラの救命・撤去作業に、全社員で昼夜を惜しんで従事した森社長のはからいによるもので、業者間相互の協力があって初めて実現した。

午前9時、多くの市民や報道陣が見守る中で作業が開始。暑さのせいか、腐食が進む大きな巨体には裂状のヒビが見られ、その部分からはおびただしい流血と鼻を突くような異臭が漂っていた。

豊留社長の指示のもと、同社の社員らは汗を拭いながら手馴れた手付きでクジラにブルーシートを被せた後でワイヤーロープを設置。作業開始から約2時間が経過して、ようやく大きな巨体がクレーンによって吊上げられた。

作業を見守る人の中に、郷里へ帰路の途中で、宿泊先でたまたま座礁クジラのニュースを聞いて、現地に駆けつけたという沖縄在住の島正幸さんは「海の日に、海の王者のクジラがこのようなカタチで死んでしまうなんて、本当に残念でならない。きっとクジラは、安易に環境破壊を繰り返す人間に対してわが身を持って何かを訴えたかったのでしょう」と、クジラの口に挟まっていたという2本のペットボトルを握り締めながら残念そうに語っていた。

座礁地点から、約500mほど離れた砂地に移動されたクジラは、事前に掘られた穴へ静かに横たえられた後、死亡原因究明のために調査なども行われ、20日早朝からはクジラの埋設作業もほぼ2日間にわたって行われた作業は、同社社員をはじめ関係者の懸命な努力により無事に終了した。



高所クレーンを導入してクジラを埋設した作業＝加世田市の現地で

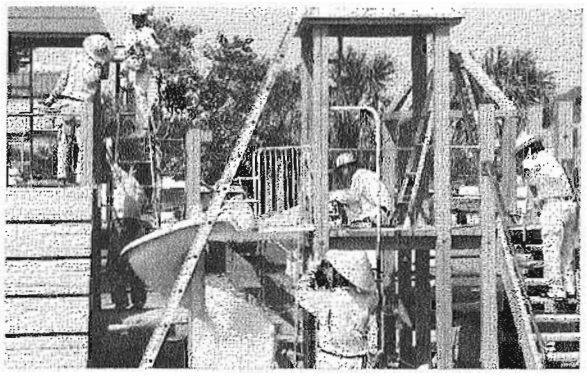
県板金塗装工業協同組合曽於支部（支部長・松尾博文㈲松尾建築塗装社長）は21日、志布志町の鉄道記念公園で遊具等の塗装作業をボランティアで実施した。同組合のボランティア活動は、会員相互の親睦と協力を願い毎年実施、曽於郡内の8町の小、中学校を対象に続けられて今年で14年になる。

会員各社から総勢16人の専門家が参加、松尾支部長が「せっかくのボランティアです。暑い中体調に気をつけて頑張ろう」と激励。作業は、公園内の遊具施設を手際良くまた順序よく仕上げていった。また遊具まわりの除草も行い、炎天下のもと参加者達は汗びっしょりの作業をこなした。

同町建設課管理係職員は「プロの技術で奉仕していただいて助かります。同公園は子供たちやお年よりの憩いの場となっておりきれいになって感謝の気持ちでいっぱいです」とお礼を述べた。

県板塗工業協組曽於支部ボランティア

鉄道公園で遊具塗装



汗だくで作業する参加者＝志布志町の鉄道記念公園で

県農村振興技術連盟加治木支部と県農村振興事業連盟加治木支部は22日、横川町の農業交流センター「さくら館」で、17年度土地改良施設維持管理活動を実施し、地域住民に喜ばれた。

午前9時、さくら館駐車場に集合した参加者を前に、山下弘文横川町農林課長は「北部地区の年間行事に、多くの方が参加してくださってありがたく思う。陽射しが強いので、健康には十分に注意して作業を」と挨拶。続いて福島英行横川町長と岡田秀信県加治木耕地事務所次長が「繁忙期にもかかわらず、地方面からのご協力に感謝する。ふるさと振興発展のため、今後もお力をお借りしたい」とそれぞれの立場から励ましの言葉を送った。

立山和幸横川町耕地係長が作業場所や手順等を説明した後、参加者は4班に分かれて担当場所へと移動し、早速作業を開始した。

当日の参加者は、加治木耕地事務所と横川町及び牧園町、湧水町の職員、建設業者約90人。真夏の強い陽射しの下、県道牧園薩摩線やさくら館周辺農道など約3kmにわたって、汗びっしょりになりながら草払いやごみ拾いに熱心に取り組んでいた。

作業終了後、再び駐車場に集合した参加者は、地元名産の小原すいかでのどの渇きをいやしながら、見違えるようにきれいになったセンターを満足げに眺めていた。

作業前に記念写真に納まる参加者＝横川町のさくら館で

農技連加治木支部等 土地改良施設維持管理活動

90人が農道草払い

㈱常盤建設（尾辻義治社長、山川町）はこのほど、国道226号指宿市十二町から山川成川バイパスまでの沿線清掃作業を3日間かけてボランティアで実施。連日の酷暑の中、社員らは地域幹線の美化活動に心地よい汗を流した。

作業は、7月5日から3日間にわたり、指宿市十二町交差点付近から山川町成川地区の成川バイパスまでの約3kmの区間で実施。沿線に投棄されたごみや空き缶のほか、街路樹の剪定・除草、ロードスイーパーを導入しての区間道路の路肩部の清掃などを中心に行われ、現場では、社員らは連日の酷暑の中にもかかわらず、全身に汗をかきながら沿道に投棄されたごみの回収や雑草の除草・回収を手際よく行った。

尾辻社長は「地元農水産業の円滑な流通と、地域住民の生活に欠かせない道路を守ることは、われわれ地元の建設業の務め。今回のボランティア活動を通じて学んだことを、さらなる地元住民からのニーズに反映していきたい」と語った。

3日間にわたって実施された清掃活動＝山川町の成川バイパスで

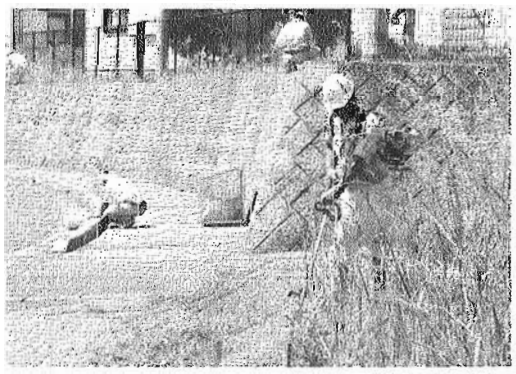
常盤建設ボランティア

地域幹線で美化活動

㈱キョクヨウ（山野秀明社長、加治木町）と安全協力会友愛会（秋丸紘一会長）は22日、蒲生町の「おおくすたうん」で恒例の奉仕作業を実施し、関係者に喜ばれた。

午前10時、おおくすたうん公園に集合した参加者40人を前に、山野社長が「奉仕活動は住民に大変喜んでいただいている。今年も期待に応えられるよう、心を込めて作業を」と挨拶し、作業手順や安全上の注意など説明した後、参加者は4班に分かれてそれぞれの作業場所へと移動し、作業を開始した。

当日の作業内容は、町営公園と県営及び町営住宅周辺道路の草払いやごみ拾い、公園内の滝や噴水の水あかやコケの除去など。うなぎのぼりに上昇する気温の中、参加者は黙々と作業を続けていた。



熱心に作業する参加者＝蒲生町のおおくすたうんで

キョクヨウ・友愛会が奉仕作業

おおくすたうんを清掃

建設業の詳しい情報は…
無料体験実施中
http://www.kc-news.co.jp
業者格付・県・市町村予算・発注予定工事 等々 情報は盛りだくさん
お問い合わせ：
099-222-6123

県防水工事業協組安全祈願祭

無災害へ決意新た

県防水工事業協同組合（山崎洋理事長）は15日、鹿児島市の松原神社で安全祈願祭を開いた。出席者は、今年1年の無事故無災害と各社のさらなる繁栄を祈念した。

祈願祭では、山崎理事長が神前に玉ぐしを捧げ、組合員各社の安全と繁栄を祈願。また、米森健一郎安全委員長が「労働災害の絶滅を誓い、今年1年間の無事故無災害と各社の繁栄を祈願いたします」と誓いの言葉を述べ、出席者はゼロ災害に向け決意を新たにした。

神事の後、同市の朝の海で行われた新年会で、山崎理事長は「既存ストックの有効活用が叫ばれ、防水工事の重要性が増してくる。技能の伝承、技術の研さんに努め、社会的ニーズにこたえていかなければならない」と抱負を述べた。

写真に納まる組合員ら＝鹿児島市の松原神社で

座礁クジラ撤去を開始

森組が作業に協力

大浦干拓沖

南さつま市の大浦干拓沖に座礁したマッコウクジラ2頭の撤去作業が14日から始まった。大勢のギャラリーが見守る中、㈱森組（森千秋社長）の社員らが慎重に作業を行った。

クジラ（全長約15m、推定体重約40t）は8日未明、同海岸に漂着。衰弱がひどく、しばらくして2頭とも息絶えた。

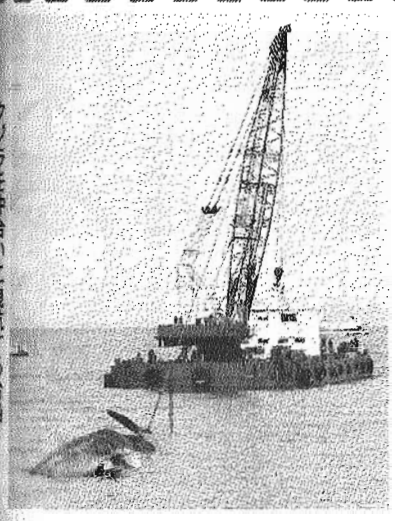
海上保安本部、県南薩地域振興局、南さつま市では、クジラの死がい処理の対策を協議。その結果、14年と17年にクジラが座礁した際、海上工事で培った実績と経験を生かして尽力した㈱森組に協力を要請することを決めた。

14日、潮位が戻るのを待って、午前11から作業を開始。森社長をはじめ湊修一県南薩地域振興局長、大平和己同局農林水産部長、南さつま市農林水産課職員、地元住民らが見守る中、㈱森組の上村大工務部長をリーダーとするクルーらが、台船で沖合いに曳航するため、クジラの尾ひれにワイヤーを結ぶ作業に着手した。

作業を見守っていた園田豊県議は「クジラの座礁も今回で3回目。いつもながら、的確で迅速に対応してくれる同社に感謝したい」と、厳寒の中で作業に励む社員らにエールを送った。

なお作業は、潮位が低かったため難航。結局、6時間近くかけて1頭のクジラを海岸から沖合い約100mに移動させ、初日の作業を終えた。

森社長は「時期的に洋上の天候が不安定であることと、周辺海域が遠浅であるため、思うように台船が海岸に近寄ることができず、作業の成果が上がらなかった。天気の様子を見ながら、20日前後には作業を終えたい」と語った。



クジラを沖合いに曳航する台船

ゼロ災誓い合う

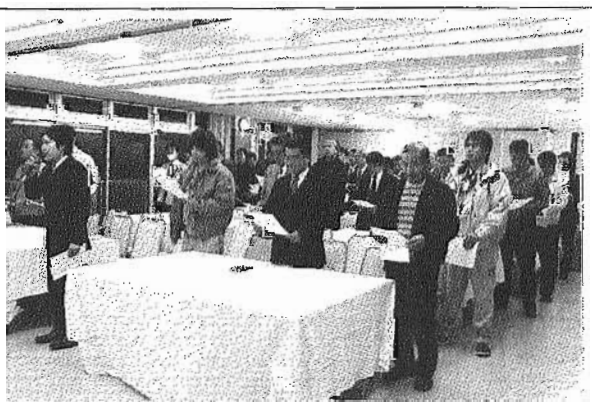
勝建設安全衛生会議

㈱勝建設（上原勝社長）と安全協力会（濵田康秀委員長、㈲濵田内装）は14日、鹿児島市の一本桜温泉センターで22年度安全衛生会議を開いた。会員ら約60人が参加し、「一人・一人が安全リーダー」をスローガンに無事故無災害に努めることを誓い合った。

物故者への黙とうに続き、濵田委員長が「一丸となり、安全に対しての意識を高めていきたい」と決意を込めた。安全作業報告では、鹿児島盲学校移転改築やさくらヒルズ新屋敷壱番、弐番館新築など6件の新築工事について担当者が一人ずつ報告。「残りの期間を無災害で引き渡したい」と意気込みを見せた。

竹添友和安全副委員長（㈲竹添工務店）がパトロールの結果を報告。「外部足場や感電事故など日ごろから点検を徹底し、より良い現場環境をつくってほしい」などと、さらなる安全意識を訴えた。㈱小原鉄金工業の永江純一さんは「事故を防ぐための安全十則」を読み上げ、出席者全員で快適な職場づくりに取り組むことを確認した。

顧問の桑鶴勉県議は「県民の経済、雇用を守るため、しっかりと公共事業費を確保していく必要がある」と言葉を寄せた。その後、沖田健一県中小企業団体中央会専務理事による乾杯の音頭で開宴、新年の門出を祝った。



安全意識を高めた会議＝鹿児島市の一本桜温泉センターで

森建設安全大会

三大災害の防止を

㈱森建設（森義久社長、鹿屋市）は14日、鹿屋市で安全衛生大会を開いた。関連会社社員ら約150人が参加。三大災害防止に向け、安全対策への意識高揚を図った。

大会の冒頭、森社長は「昨年も大きな労働災害はなく、口蹄疫問題でも防止活動に協力をもらい感謝している。建設業界は厳しい環境にあるが、今年1年、希望を持って安全第一で頑張っていこう」と述べ、さらに安全管理を徹底するよう呼び掛けた。

安全講話では、吉井和幸鹿屋警察署交通課長が事故実例などを紹介し、事例による安全対策を訴えた。また、長友ゆかり管理栄養士（県社会保険協会）による「メンタルヘルスと食事」と題した健康講話もあった。

最後に、参加者全員でゼロ災宣和を行い、大会

安全管理の徹底を訴える森社長＝鹿屋市の同社で

新年と表彰者の受賞を祝う会

横瀬氏、中原氏　功績称える

鹿児島造園技術専門校

鹿児島造園技術専門校（坂上久美子校長）は15日、鹿児島市の鹿児島東急インの日本料理「あづま」で新年と表彰者の受賞を祝う会を開いた＝写真＝。指導員や来賓など20人が出席。新たな年の飛躍を誓うとともに、受賞者2人の功績をたたえ、盛大に祝福した。

郷原和寿県造園技能協会長は冒頭の挨拶で「今年は意識改革に着手し、飛躍の年にしなければならない」と強調。また、3月に開幕する第28回全国都市緑化かごしまフェアに触れ「職員一丸となって成功に向け、少しでも貢献していきたい」などと決意を表明した。

受賞者への花束贈呈後、22年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章した横瀬精藏氏と22年度技能検定功労・個人を受賞した中原昭郎氏がそれぞれ挨拶。横瀬氏は「皆様の心温まる激励の言葉に感謝の気持ちでいっぱい。受章に恥じることのないよう精進してきたい」と語り、中原氏は「受賞は周囲の方々の協力のおかげ。また一生懸命頑張っていきたい」と抱負を述べた。

出席者全員で乾杯し、祝宴。指導員らは酒を酌み交わしながら、相互の親睦を深めるとともに、新年の飛躍を誓い合った。

県法面工事業連合会新年会

技術高め業務拡大を

県法面工事業連合会（濵田晋一会長）は14日、鹿児島市のパレスイン鹿児島の日本料理「一心行」で新年会を開いた＝写真＝。会員企業14社の代表者が出席。技術力の向上と業務拡大を図り、協会をより一層発展させていくことを誓い合った。

濵田会長は冒頭の挨拶で、公共事業の削減や受注競争の激化などに触れ「今年も団体、企業にとって大変な時期になるのではないか」と予測。会員企業の技術力向上等の目標を掲げ「協会が発展していけるよう一致団結して、この難局を乗り切っていこう」と述べ、会員にさらなる協力を求めた。

尾口傳吉氏（セブン産業㈱）が「いよいよ年度末の繁忙期を迎える。1年間、無事故無災害を達成できるようともに頑張ろう」と力強く乾杯の音頭を取り、開宴。出席者は酒を酌み交わし、さらなる飛躍を

出水の鳥インフル

建協出水支部

防疫対策等に尽力

全国有数の養鶏地帯にショックが広がった―。出水市高尾野町の養鶏農家が飼育する鶏が26日未明、県内で初めて鳥インフルエンザに感染したと確認された。「これ以上、拡大するのを防げ」と、行政や建設業界は緊迫した事態の中、さらなる感染拡大を防ごうと、日中夜問わず抹殺処分や埋設、幹線道路での防疫対策に奔走した＝写真①＝。

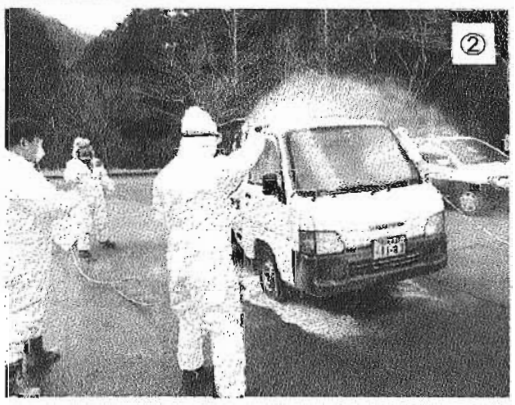
昨年12月、出水平野で越冬中のナベヅルが鳥インフルエンザに感染して以降、行政や地元住民が危ぐしていたことが発生。渋谷俊彦市長も「最も恐れていた事態になった。感染拡大防止に全力を注ぎたい」と言葉少なに語る。

県建設業協会出水支部（特手祐治支部長）が出水市から一報を受けたのは25日夕方。至急、出水建設会館に役員を招集し、市担当者と埋設で使用する重機の確保や、幹線道路に設置する消毒ポイントでの人員割り当てなどについて詳細を詰めた。

支部では、会員に要請してバックホウと運搬用トレーラーを確保。リース業者からもタイヤショベルを借り受けて、26日早朝には県の指示を受けて感染した養鶏農家に運現地田畑では消石灰が路面一面にまかれ、白い防護服に身を固めた職員らが交差点で道路を封鎖。深夜3時からは県職員らによって養鶏場内の約8600羽もの鶏の殺処分が開始され、敷地内に確保した埋設地では投入した会員の重機で穴が掘られ、次々と処分された鶏やたまご等が投棄された。

また、周辺地域への感染拡大を管内で阻止しよう―と、国道3号の水俣との県境やさつま町へ通じる消毒ポイントでも、支部会員らが3交代シフトを敷いて消毒作業に当たった＝写真②＝。

特手支部長は「口蹄疫の際は侵入を水際で防ごうと協力したが、今回は地元で発生した鳥インフルエンザでもあり、危機感は非常に高いものがある」と話し、「会員には苦労をかけるが、機動力を発揮して防疫対策に協力していきたい」と話した。



23年度新規予定河川事業

甫木水門改築など

国交省

国土交通省はこのほど、学識経験者で構成する社会資本整備審議会河川分科会事業評価小委員会（委員長・辻本哲郎名古屋大学大学院教授）の初会合を開き、23年度から新規に実施予定の肝属川特定構造物改築事業・甫木水門改築（鹿児島県）など4件の河川事業の予算化に対して意見を聞いた。国交省は、小委員会の意見を踏まえた事業の評価結果を近く公表する。

小委員会は、22年度に運用を開始した「新規事業採択時評価実施要領」に基づいて設置。同要領では、新規に採択する公共事業の評価に当たり、地方整備局がまとめた資料に基づいて、本省が事業の予算化について、第三者で構成する委員会から意見を聴くことになっている。意見を踏まえた評価結果を国会で審議した上で予算化する。

今回意見を聴取した事業は、肝属川特定構造物改築事業・甫木水門改築のほか、狩野川総合内水緊急対策事業（静岡県）▽最上川上流特定構造物改築事業・大旦川排水機場改築（山形県）▽吉野川総合内水緊急対策事業（徳島県）―。

砂防ボランティア協

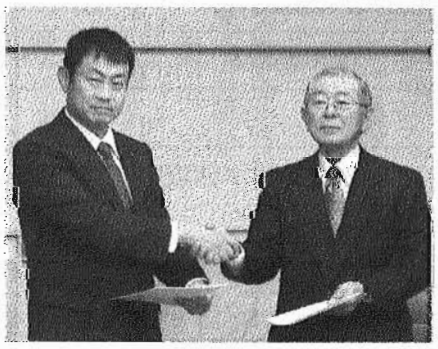
県と災害協定締結

安心安全へ業務連携

県は26日、NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会（平山弘理事長）と大規模土砂災害時の技術支援に関する協定を締結した。同時多発的な被災現場の早期復旧や県民の安心安全の確保で、専門家が連携して業務に当たる。

協定では、大規模土砂災害発生時の県の災害関連事業や災害復旧事業の業務を支援。土木部砂防課の災害関連事業の申請書類作成および地域振興局への災害復旧事業の申請業務で、それぞれ技術的助言を行う。

調印式は鹿児島市の県庁であり、県の関係職員や同協会理事らが出席。協定主旨説明の後、平山理事長と渡正昭土木部長が協定書に調印し握手を交わした。



協定後、握手する平山理事長（右）と渡土木部長＝鹿児島市の県庁で

渡部長は「初期段階の被災調査など復旧事業に生きてくる。協定を有効活用しながら土砂災害の減災に努めていきたい」と謝意を述べた。

平山理事長は「発足から14年。危険個所等の点検や地域啓発に従事してきた。経験を踏まえ、積極的に応援していきたい」と決意を述べた。

同協会は9年5月、県北西部地震を機に県土木部職員OBにより設立。17年3月に法人化し、会員は185人（22年4月1日現在）。

建災防建築分会

あす、所長研修

建設業労働災害防止協会県支部建築分会（前田正人分会長）は28日午後零時45分から、鹿児島市の県営緑ケ丘団地21号棟で現場所長研修会・現場見学会を開く。

当日は、現場見学の後、同市の建築会館で現場の安全管理等について所長研修を行う。会員ら約50人が参加する予定。

道路ふれあい月間標語

3月末まで募集

国交省

国土交通省は、23年度「道路ふれあい月間」（8月）の推進標語を3月31日（必着）まで募集する。選定委員会が優秀賞9点（小学生の部、中学生の部、一般の部各3点）を選び、このうち特に優れた標語に最優秀賞を贈る。入賞作品はポスター、チラシなどに幅広く活用する。

問い合わせは、同省道路局道路交通管理課（☎03・5253・8111、内線37423）まで。

太陽光サーチャージ

経産省が認可

九電

経済産業省は27日、九州電力が申請していた太陽光発電促進付加金（太陽光サーチャージ）を認可した。23年度の付加金は、1kWh当たり0・07円（従量制供給の場合）。4月1日から電気料金に設定する。

同社は付加金設定へ20日に申請、国の買取制度小委員会で審議した。

吹上の海岸

座礁クジラを埋設

25日、日置市吹上町の海岸に打ち上げられたマッコウクジラの処理、埋設が現地で行われた。地元建設業の有志らで構成する吹上町建設互助会（倉園一雄会長）が全面協力。埋設作業に、機動力を発揮した。

「大きなクジラが打ち上げられている…」。同日早朝、海岸にマッコウクジラが座礁しているのを、散歩をしていた近くの住民が発見。体長17m、体重約60tにも及び、発見された時には既に死亡していた。

連絡を受け、早速現地に駆けつけた日置市吹上支所の職員をはじめ海上保安本部、県鹿児島地域振興局農林水産部の職員らは、クジラの遺

重機を用い、クジラを埋める穴を掘削する会員ら＝日置市の海岸で

地元建設業　機動力を発揮

体した後に海岸近くの土中に埋設することを決め、その作業を吹上町建設互助会に要請した。

午後1時、多くのメディアや地域住民らが見守る中、作業を開始。会員らは、2台の重機を使って埋設するための穴を掘った後、重機のアタッチメントを巧みに使ってクジラの解体、埋設を進め、午後8時までに作業を終えた。

作業を見守っていた近くの住民は「以前、この周辺に小型のクジラが打ち上げられた話は聞いたことあるが、こんなに大きなクジラを見たのは初めて」と驚いた表情で語った。

おくやみ

おくやみ情報をお寄せください

新聞掲載は無料です。毎週火曜日から土曜日（夏季・年末年始休暇および祝祭日の翌日を除く）に掲載します。会社の代表者ならびに社員にかかわらずどなたでも構いません。親族、身内の方もご相談ください。

お問い合わせ
099・227・5109

高品質工事の提供を

姶良・伊佐振興局建設部長表彰

21・22年度県土木部優良工事等表彰式（姶良・伊佐地域振興局建設部長表彰）が3日、姶良市の同振興局であり、22年度の優良工事5社と優秀技術者5人、21年度の優良工事4社に表彰状が贈られた。

式では、松永洋文建設部長が各受賞者に賞状を授与。「県では厳しい財政の下、事業の峻別（しゅんべつ）、重点化を図りながら社会資本の着実な整備を進めている。これからは、施工者、発注者ともどもさらなる技術向上に努め、地域住民とコミュニケーションを密に行い、よりよい事業を進めていきたい。今後とも施工技術の研さんに努め、さらなる良質な工事完工を」と祝辞を寄せた。

これを受け、受賞者を代表して㈱山藤建設の岩下吉則社長が「受賞を機に、より一層の安全や高品質の工事を提供できるよう、さらに精進していきたい」と謝辞を述べた。

記念写真に納まる22年度受賞者ら（上）と21年度受賞者ら＝姶良市の県姶良・伊佐地域振興局で

受賞工事等は次の通り。

【優良工事・22年度】
▽街路（東餅田21の3工区）＝㈱山藤建設
▽広域一般河川改修（綿打川4工区）＝本山機動㈱
▽火山砂防（鍋底谷川1工区）＝㈱鍋倉工務店
▽急傾斜地崩壊対策（上植村3地区2工区）＝㈲福丸建設
▽急傾斜地崩壊対策（上植村3地区1工区）＝㈱北原組

【優秀技術者・22年度】
▽上野太㈱植村組）＝地すべり対策（丸尾2工区）
▽岩野豊㈱新町組）＝特定交通安全施設等整備（統合補助）中央1工区
▽能見博文（福永建設㈱）＝街路（東餅田20の3工区）（合併）
▽祁内一憲㈲内田工業）＝第1号県単道路整備（災害防除）（木原野工区）
▽木村一喜㈱ミタカ建設）＝県単道路整備（交付金）（曽木3工区）

【優良工事・21年度】
▽河川激甚災害対策特別緊急（白木川19の1工区）＝林建設㈱
▽地方特定道路整備（田代(2)2工区）＝㈱中村
▽20災79号河川災害復旧＝㈱上野建設
▽特定交通安全施設等整備（統合補助）（中央3工区）＝松下建設㈱

熊毛支庁建設部長表彰

地域発展に寄与

21・22年度県土木部優良工事等表彰式（熊毛支庁建設部長表彰）が3日、西之表市の同庁であった。

22年度の優良工事4社と優秀技術者3人、21年度の優良工事1社に表彰状が贈られた。

式では、大野和明県熊毛支庁建設部長が各受賞者に賞状を授与。「優良工事は一朝一夕にできるものではなく、日々の努力とそれに携わる技術者が一致団結してつくりあげるもの。今後も研さんを積み、優良な社会資本の整備とともに、ものづくりを通じて地域の発展に寄与されることを期待する」と激励した。

これを受け、受賞者代表の神崎壽丸種子島建設㈱社長が「賞を励みに今後も精進します」とお礼の言葉を述べた。

受賞工事等は次の通り。

【優良工事・22年度】
▽第1号県単道路整備（災害防除）（雇用経済対策・白谷雲水峡工区）＝林建設㈱
▽特殊改良（白谷下4工区）＝神田土木
▽道路改築（阿高磯1工区）＝㈱時任建設

【優秀技術者・22年度】
▽切通忠敬（丸福建設㈱）＝ふれあいとゆとりの道づくり（交付金）
▽片浦健治㈲中種子運送）＝人にやさしい道づくり
▽森友康（藤田建設興業㈱）＝道路改築（上中4工区）

【優良工事・21年度】
▽第1号県単道路整備（改良）（0県債）＝㈱西田工業

記念写真に納まる受賞者＝西之表市の県熊毛支庁

技能グランプリ

来月4日から千葉で

中央職業能力開発協会と地域職業能力開発協会宮崎技能士会

日間、幕張メッセ（千葉市）などで技能グランプリを開く。競技種目は、建築大工や建築配管など全26職種。480人の技能者が「技の日本一」の座をかけ、日ごろ磨いた技能に対する国民の関心と理解を深めるため、昭和54年度から開催している技能士資格（特級・1級・単一等級）を持つ技能者の一層の技能の向上と、技能士会員が「技の日本一」の座をかけ、日ごろ磨いた技能を競う。

同グランプリは、技能士資格（特級・1級・単一等級）を持つ技能者の一層の技能の向上と、技能に対する国民の関心と理解を深めるため、昭和54年度から開催している技能士会員が「技の日本一」の座をかけ、日ごろ磨いた技能を競う。

小湊海岸の座礁クジラ

撤去作業に全面協力

南さつま市建設同友会

南さつま市加世田の小湊海岸に座礁したマッコウクジラ3頭（1頭当たり全長約16m、体重約40t）の撤去作業が1、2日、多くの地域住民らが見守る中で行われた。今回の作業は、南さつま市建設同友会（上東信義会長）が全面的にバックアップした。

同海岸は、吹上浜の中でも干潮時に出現する干潟部（遠浅）が最も広い区域。約5年前の夏にも、マッコウクジラ1頭が同海岸に座礁し、高所クレーン車を使って近隣の砂地に埋められた経緯がある。

今回は、つり上げ耐加重180t級の高所クレーン車を投入。座礁地点から約400m離れた砂地に埋めることになった。

会員らは、腐食が激しい大きな巨体に注意を払いながら、特注のワイヤーネットを手作業でくくり付けた後、クレーンでけん引。あらかじめ掘削していた深さ約10mの穴に、1頭づつ慎重に埋めた。

作業は潮位の時間帯を考慮し、2日間にわたって実施。現場には、作業の状況を見ようと多くの近隣住民ら訪れ、巨大なクジラが埋められる作業を見守った。

2日間にわたって行われた作業＝南さつま市の小湊海岸で

地域貢献活動

～ 下荒田道守会 ～

県道沿いを清掃

鹿児島市下荒田の建設業3社で構成する「下荒田道守会」は1月29日、ふるさとの道サポート推進事業の一環として、近隣を通る県道の清掃作業を行った＝写真＝。

同会は、阿久根建設㈱（井之上若一社長）、㈱中原建設（中原尚治社長）、㈲柳生建設（柳生昭弘社長）で構成。定期的に地域貢献活動を実施している。

同日は各社から14人が参加し、午前7時から作業を開始。参加者は上下線に分かれて県道218号線（鹿児島港下荒田線）と県道20号線（鹿児島加世田線）の下荒田地区約680mの歩道や植樹帯に捨てられているペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻、ビニール袋などを丁寧に拾い集めた。

～ 親和電機 ～

地域住民に感謝

㈱親和電機（篤俊治社長）は1月29日、鹿児島市照国町の国道3号沿い（約500m）の区間で、植樹帯や歩道の清掃作業をボランティアで実施した＝写真＝。

同社では、年に4、5回ほど同周辺の清掃活動に取り組んでおり、この日も早朝から社員18人が参加。路肩の清掃のほか、近くの公園清掃も同時に行った。

今年一番の冷え込みにもかかわらず、社員らは寒さにも負けず、黙々と作業を実施。周辺には、たばこの吸い殻や空き缶、菓子袋などのごみが目立ったが、一つずつ丁寧に拾い集めた。

今回の作業について篤社長は「日ごろからお世話になっている地域住民への感謝の気持ちを込めて実施した。清掃後の街歩きが、通勤・通学の人達に幸せな気分になれるような環境づくりをしたい」と意欲を見せた。

情報はこちらへ

本紙では、企業や団体等の地域貢献活動を掲載しています。作業風景の写真や作業内容等を記入し報道編集部まで情報をお寄せください。新聞掲載は無料です。
E-mail:hensyu@po.kc-news.co.jp

かごしま・元気都市創造フォーラム

100年先見据えた戦略を

かごしま・元気都市創造フォーラム（鹿児島市主催）は22日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで開き、総務省顧問の月尾嘉男氏が「IT時代の地域政策」と題して講演した。この中で月尾氏は、諸外国に比べ想像以上に立ち遅れている日本のITの現状を指摘。薩摩藩が明治維新を成し遂げたように、鹿児島から100年先を見据えた情報技術戦略を打ち出してほしいと述べた。

市民ら700人が参加したフォーラム
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

フォーラムには市民ら約700人が参加。初めに、赤崎義則鹿児島市長が「本市では情報化計画を策定、2003年を元気創造元年と位置付け、市民と手を携えた鹿児島づくりを目指している。このフォーラムが、市民とつくる市政に役立つことを期待する」と挨拶。

続いて、月尾氏はIT革命がもたらす変革として、産業経済、文化など多岐の分野から考察。100年後の戦略は、集中構造から分散構造、物質経済から情報経済、開発主義から回復主義等々の転換を示し、鹿児島でも将来を見据え、自信を持って取り組んでほしい、と結んだ。

ISO9001認証ポイント講習会

来月3日に鹿児島市で

日本エル・シー・エー

総合経営コンサルタントの㈱日本エル・シー・エー（小林敬嗣社長、本社・京都市）は2月3日午後2時から午後4時まで、鹿児島市のKCプラザで「簡単！ISO9001認証ポイント講習会」を開く。講師はLCAチーフコンサルタントで1級土木施工管理技士、ISO9001審査員の宇都崇泰氏。

建設現場を熟知した1級土木施工管理技士の立場から、ISOの概要と取り巻く環境やシンプルでスリムなISOのポイントとは、自社に合った取り組み方などをテーマにワンポイント解説する。参加費は無料。同社の概要はホームページ（http://www.lca-j.co.jp/）参照のこと。

問い合わせは、同社（フリーダイヤル0120・194・400またはeメールims@lca-j.co.jp）田中氏まで。

くじら記念碑除幕式

救出作業等を後世に

大浦町

川辺郡大浦町のふれあいパーク敷地内に建設が進められていたくじら記念碑が、このほど完成し除幕式が22日、前野輝行大浦町長をはじめ、管内の発注官庁代表ら約100人が出席して行われ、記念碑の建立を祝った。

14年1月22日未明、14頭のマッコウクジラが同町小湊千拓の海岸に集団座礁。当時の天候は冬の季節風が強く吹き、海岸は打ち寄せ

クジラをリアルに表現した記念碑＝大浦町の現地で

も近づけない悪天候の中での救出作業は困難を極めた。しかし、関係者らの決死の努力のかいあって、打ち上げられた14頭のうち1頭の救出に成功。その救出劇は全国ネットで報道され、自然界の生物の偉大さと生命の尊さを日本国民に改めて認識させた。今回の記念碑建立は、1頭のクジラの救出と、13頭のクジラの埋却・沈設作業に携わった同町並びに地域住民らの功績を後世に伝えようというもの。

本体は、ガラス繊維プラスチックを使用することで、クジラの質感をよりリアルに表現しており、全長は座礁したクジラの大きさにあわせ10㍍級で再現。見る人たちにも触れやすいものとなっている。また、モニュメントの周りには死亡した13頭の墓標として円形の六万石を配置し、群れをなすクジラを大自然の求心力として表現。加えて、当時の救出作業の経緯を記した碑文と、救出劇や埋設作業を後世に伝えるため、パネルに刻み記念碑の正面に配してある。

式典の冒頭、前野町長が「この記念碑が当地を訪れる方々に、自然の偉大さを感じ

の大畑和代氏による講

えるものとなることを祈念したい」と式辞。続いて、福徳俊弘加世田総務事務所長、川原秀男県議、川野信男加世田市長らの来賓代表祝辞の後、㈱田代設計工房の田代昌弘代表が「くじらとの日々」と題した記念碑のコンセプトを説明。施工に当った同社に対して感謝状を、クジライラストを作成した大浦中学校3年生の下村愛美さんに表彰状が手渡された。

また同日は、水産総合研究センター遠洋水産研究所の加藤秀弘氏と、笠沙恵比寿博物館

雷害リスク低減コンソーシアム

30日に設立総会

雷害リスク低減コンソーシアム（座長、妹尾堅一郎慶応義塾大学大学院教授）の設立総会が、30日に東京都港区の国際文化会館で開かれる。設立総会では、設立趣意書、規約、幹事選任、活動方針を決める。また、併せて講演会やパネルディスカッションも行う。

雷害によってもたらされる瞬間的な電圧低下や、情報システム基盤リスクに対して、社会的に無関心なのが現状。コンソーシアムは、産学官の連携協働体制で、雷害ビジネスの交流プラットフォームを整備し、産業としての認知を促進するとともに、リスク低減に向けた社会全体への普及啓蒙活動を進める。

1月17日までに参加企業は約40社が名乗りを上げており、これら企業と学識経験者、オブザーバーの国土交通省、文部科学省（予定）などでスタートすることになっている。

木くずの受け入れを開始した鹿児島空港リサイクルセンター＝加治木町の現地で

鹿児島空港リサイクルセンター

木くず中間処理を開始

鹿島道路

鹿島道路㈱はこのほど、姶良郡加治木町の同社九州支店鹿児島営業所敷地内に木くず中間処理施設、鹿児島空港リサイクルセンター（古賀明夫所長）を建設。9日付けで県知事認可を取得し、受け入れを開始した。

従来受け入れていたアスガラ、コンクリートガラに、今回木材も加わったことから、公共工事から排出される廃棄物の主要3品目の全てを受け入れることが可能になり、ゼロエミッション達成にまた一歩近づいた。

同センターでは、山間林地における道路、治山、水防建設工事で発生する根株等の良質材を1次処理後、更に細かく2次処理することで、法面吹付の厚層基材や、家畜用敷きわらの代替品として再利用する。また、住宅建て替えにより発生した解体木くずは、1次処理後、工業用燃料として再利用する。

古賀所長は「同センターの完成は、資源の再利用と循環型リサイクルシステム構築に役立ち、地場企業への支援にもなると確信している」と語っている。

鉄筋施工技能検定試験

33人が難関に挑戦

14年度後期鉄筋施工技能検定試験が22日、国分市の県人材育成センターで実施され、主催の県職業能力開発協会職員や、検定員を務めた県鉄筋業協会（中山勝実理事長）

厳しく採点する検定員
＝国分市の県人材育成センターで

役員が見守る中、離島を含む県内各地から、1級21人、2級12人、計33人が難関に挑んだ。

当日の検定は、ST筋28本、HOOP筋8本、柱筋10本などを時間内に図面通り組み立てる実技試験で、学科試験は2月2日に行われる。

この日に備え、現場や社内で先輩達の指導を受けながら訓練を積んできた受検者は、終始真剣な表情で取り組んでいた。そのうちの1人、1級に初挑戦した㈱小原鉄筋工業の森保夫さんは「自信は五分五分ですが、何事も経験と受けました。合格して仕事に生かせれば」と話していた。

終了した順に検定が行われたが、受検者は、採点表を手にした検定員がスペンサーの配置や結束もれ、フープの間隔など厳しくチェックする様子を、緊張した表情で見つめていた。

なお、合格発表は3月25日に予定されている。